

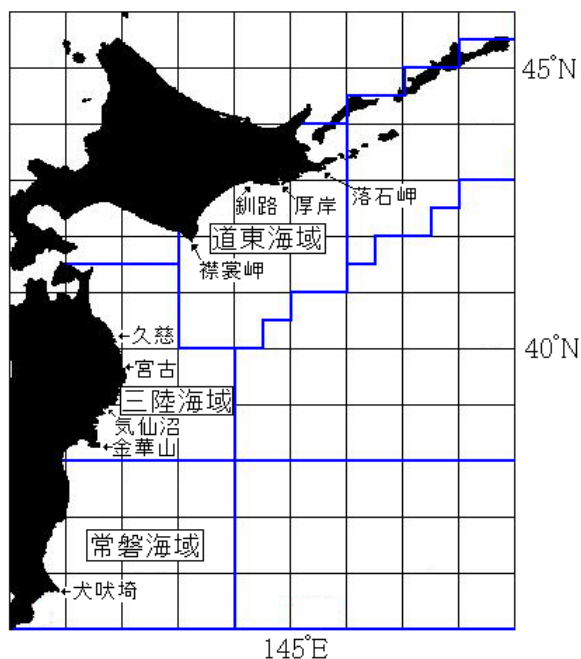
平成25年度 第3回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2013年10月上旬～11月中旬)のポイント

来遊量

- ・道東海域では、来遊量は増加し、10月上旬は中位水準となる。
- ・三陸海域では、10月上旬になると、断続的ではあるが来遊がある。10月下旬になると中位水準となる。
- ・常磐海域では、10月下旬になると、断続的ではあるが来遊がある。



海域の名称

問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 事業二課

担当：渡邊、松尾

電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

独立行政法人水産総合研究センター

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
---	---

平成25年度 第3回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2013年10月上旬から11月中旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

来遊量は増加し、10月上旬～中旬は中位水準となる。10月下旬から減少を始め、11月上旬は低位水準となり、終漁となる。

(2) 漁場

10月上旬～中旬は、落石南東～襟裳岬沖と、落石はるか南沖が漁場となる。10月下旬は、落石沖の漁場は消滅し、厚岸～襟裳岬沖となる。11月上旬は、襟裳岬沖に漁場が残る。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

10月上旬は、断続的ではあるが来遊がある。来遊量は徐々に増加し、10月中旬は低位水準、10月下旬～11月上旬は中位水準で推移する。11月中旬は中位水準であるが減少する。

(2) 漁場

10月上旬には、三陸北部に一時的に漁場が形成される可能性がある。10月中旬は三陸北部で漁場が持続する。10月下旬～11月上旬は、三陸北部～南部が漁場となる。11月中旬は、三陸南部に漁場が残る。

3) 常磐海域（予測の根拠は「4. 常磐海域の来遊予測について」を参照）

(1) 来遊量

10月下旬は、一時的ではあるが来遊がある。来遊量は増加し、11月中旬は中位水準となる。

(2) 漁場

10月下旬には、常磐北部に一時的に漁場が形成される可能性がある。11月上旬になると、漁場は常磐南部まで広がる。

2. 予測の概要

海 域		10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬
道東海域	来遊量					
	動向	中位増加	中位水準	中位減少	低位減少	
	漁 場	落石～襟裳岬沖	落石～襟裳岬沖	厚岸～襟裳岬沖	襟裳岬沖	
三陸海域	来遊量					
	動向	断続的	低位増加	中位増加	中位水準	中位減少
	漁 場	北部	北部	北部～南部	北部～南部	南部
常磐海域	来遊量					
	動向			一時的	低位増加	中位増加
	漁 場			北部	北部～南部	北部～南部

3. 漁況の経過概要（9月中旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前年同様、低位水準であった。道東海域よりも北東側の落石東北東～東沖における来遊量の水準は、前旬を上回り、前年並となった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、来遊量は徐々に増加した。

(2) 漁場

落石東沖が主漁場であった。道東海域では、千葉県水産総合研究センター千葉丸が落石南東15海里付近で操業し、1～6トン漁獲した。また小型船主体に操業した船もあるが、漁獲量は少なかった。なお道東海域よりも北東側の、落石東北東～東沖（12～17℃）で、多くの船が操業。漁場は花咲港に日帰りできる所まで近づいてきた。

(3) 魚体

道東海域よりも北東側の、落石東北東～東沖では、引き続き中型魚主体の群と大型魚主体の群があり、同じ漁場でも、中型以下の混じり具合は異なった。中型魚以下の割合は、2割程度の群もあれば、7割程度となる群もあった。大型魚は体長31～32cmモード、中型魚は体長25～27cmモードであった。大型魚の体重は、150～160g台主体であった。

4. 常磐海域の来遊予測について

本予報では、常磐海域への魚群の来遊時期は10月下旬になると予測しているが、その根拠は以下の通りである。

2013年6月～7月に東経143°～西経165°の海域で東北区水産研究所が行った中層トロールを使った漁獲調査の結果では、サンマは東経155°で採取されたが、それより西側では非常に少なかった。このように、今年も前年に引き続き、漁期前調査時に西側の海域でサンマが少ない状況が継続していると考えられる。一方、本調査結果から推定した東経143°～西経177°における推定資源量は、重量ベースで208万トンと昨年の160万トンを上回った。

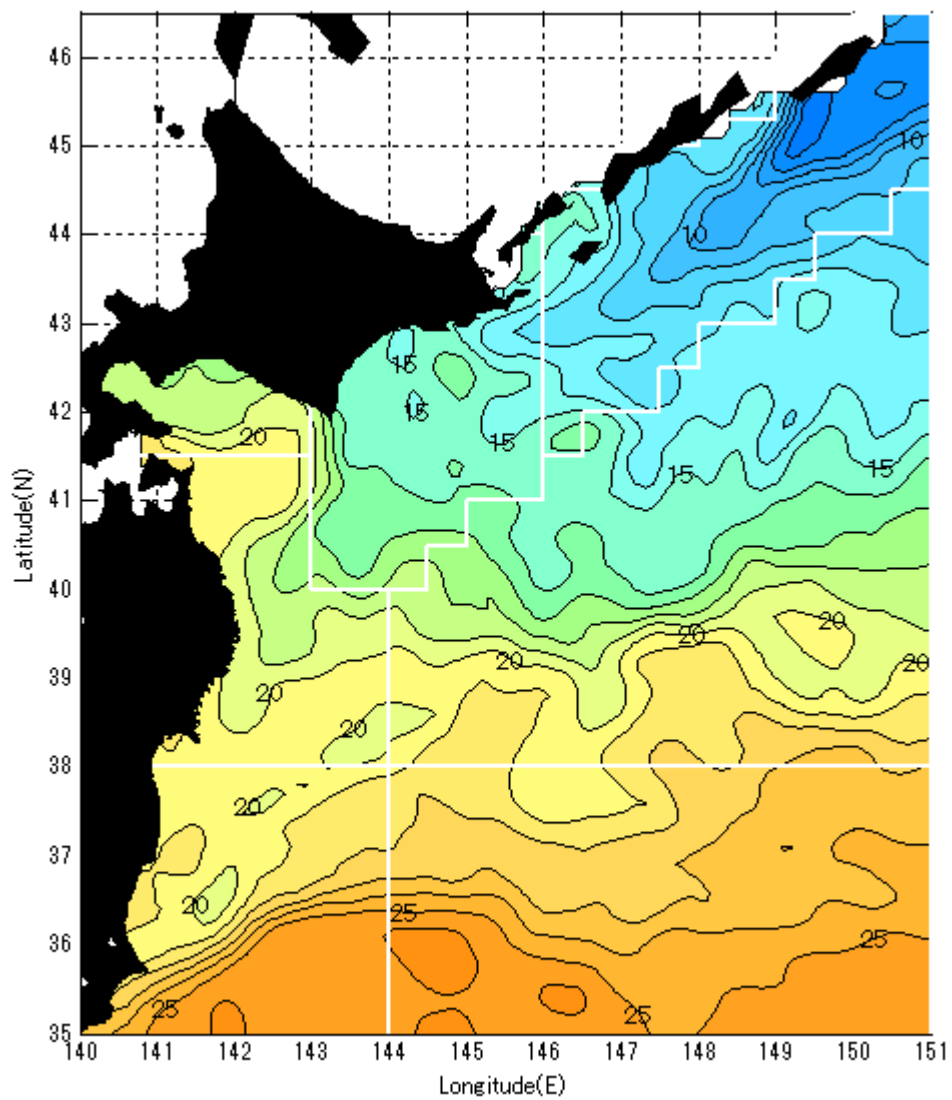
9月上旬までの水揚量の動向を見ると、今年は昨年を下回りかなり少なかった。9月中旬の水揚量は、ほぼ昨年と同じであった。一方、9月中旬の主漁場は、道東海域において表面水温がかなり高いことも影響し、落石東北東～東南東沖である。魚群の南下が早い年（例えば2002年）は、9月中旬に三陸北部に漁場ができていた事と比べると、今年は昨年に引き続き魚群の南下が遅い。これらの事から、沖合に分布したサンマの群が漁場に来遊しているものの、現段階では魚群の南下は遅い。

現在、道東海域の落石南東沖に暖水塊が存在する。魚群はこの暖水塊の南側を通して襟裳岬沖に来遊する可能性もある。今年は、津軽暖流の張り出しがやや強いものの、南下を妨げるような暖水塊は存在しない。このことから、道東海域に来遊した魚群は、比較的スムーズに常磐沖まで南下すると考える。予測水温分布図では、10月下旬になると例年漁場が形成される18℃台が広がる。以上のことから、常磐海域への魚群の来遊時期は、平年（2001年から2010年までの10年間：10月下旬）並の10月下旬になる。

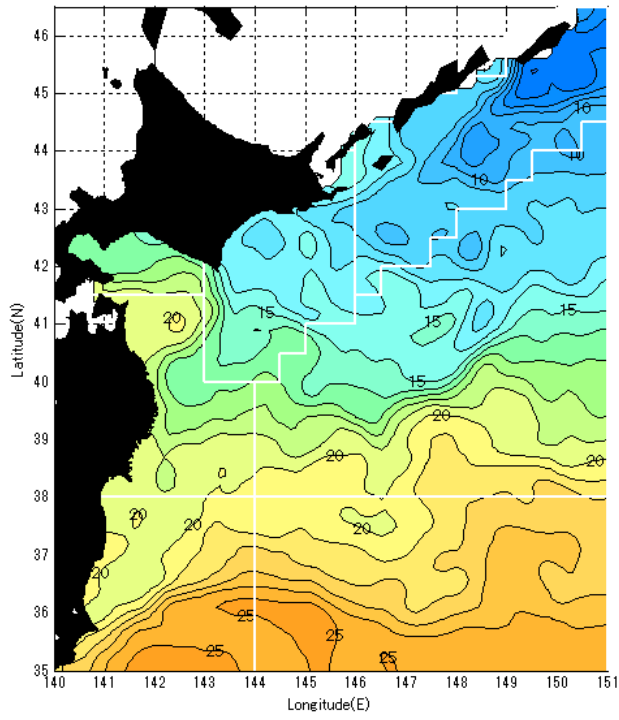
なお、9月中旬における水揚物の体長組成は、大型魚と中型魚主体である。一方、東北区水産研究所の漁期前調査結果では、東経160°以東の海域では1歳魚の割合が高い。これらのことから、常磐海域における魚体は、大型魚主体で推移する。

4. 予測水温分布图

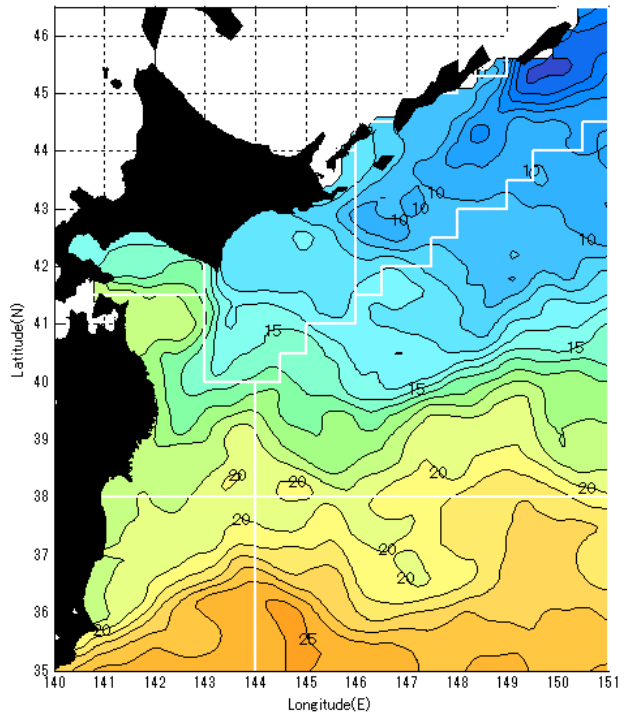
10月上旬予測表面水温分布图



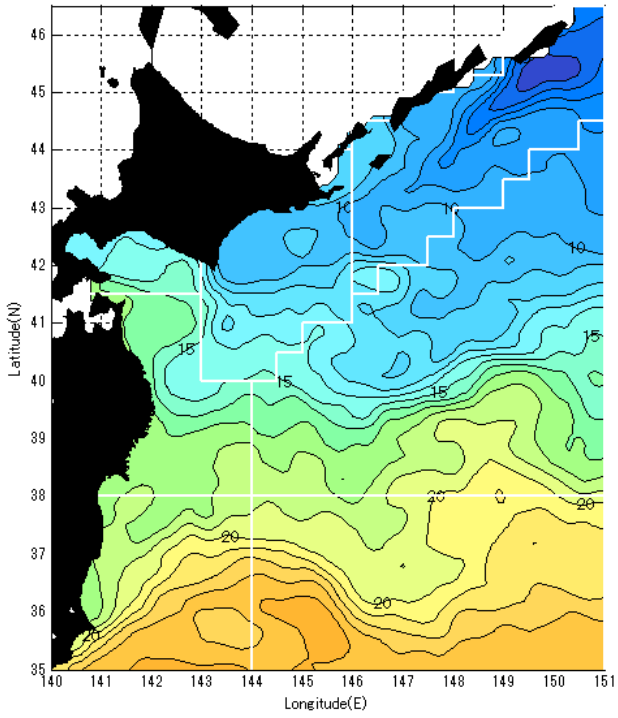
10月中旬予測表面水温分布図



10月下旬予測表面水温分布図



11月上旬予測表面水温分布図



11月中旬予測表面水温分布図

